



日本はウクライナの中立化に向けた外交努力を（党声明）

令和4年3月11日

幸福実現党

ロシアがウクライナへ侵攻してから2週間余り経ちました。現実には多くの生命が失われていることを大変痛ましく思います。一日も早く平和が訪れることを心より願います。そのためにも、世界的な視野で「正しさ」を考える必要があります。

現在、国際社会は、ロシアが一方向的に悪く、ウクライナは被害者であるとの見方に立っています。今回の戦火は、ロシアの立場に対する理解に欠け、欧米への急接近を図ったウクライナのゼレンスキー大統領が招いた失策と言えます。

ロシアにとってウクライナは地政学上、NATO諸国との緩衝地であり、ウクライナのNATO加入は、ロシアの安全保障にとって致命的です。ウクライナが急進的な行動を取れば、ロシアが対抗措置を取ることは明らかだったはずですが。

ウクライナ政府がこれ以上、欧米や日本を巻き込んで戦おうとすれば、ウクライナでの火種は「世界大戦」へと発展します。ウクライナはこうした「越権行為」を改めるべきです。ウクライナ政府は抵抗の砲火を止めて、ロシア側が停戦条件の一つとしている現政権の退陣に応じ、新しい親露派政権の下、ロシアとEUと中立の姿勢を取って存続できる道を取るべきです。

翻って、日本はロシアを執拗に追い込む欧米に追随し、ロシアに対して経済制裁を行う以外にも、ウクライナに防弾チョッキなどの提供を行いました。これは「軍事協力」であり、踏み込みすぎと言わざるをえません。対中包囲網の形成やエネルギー安全保障の観点からも、日本はロシアと友好関係を強化する方が国益に適うのは明らかです。欧米に追随する対露封じ込めの方針を改め、停戦とウクライナの中立化に向けた独自の外交を展開していくべきです。

信仰国家・ロシアと、唯物論国家・中国との違いは明らかであり、人権への理解度が全く異なります。ロシアの動きにはロシア系住民を守るという意味合いもあり、中国の覇権拡大とは根本的に異なることを理解すべきです。米国バイデン政権の外交姿勢もあって孤立を深めるロシアは今、中国に接近しつつあります。ロシアの立場に対する理解を示し、国際的正義を追求していたトランプ氏が現在、米国大統領の座にあれば、今回のウクライナの戦火は起こりえなかったと言えます。

世界が混迷を深めるなか、私たち幸福実現党は、正義ある平和を打ち立てるべく、声を上げてまいります。

以上